

第3章 コンセプト

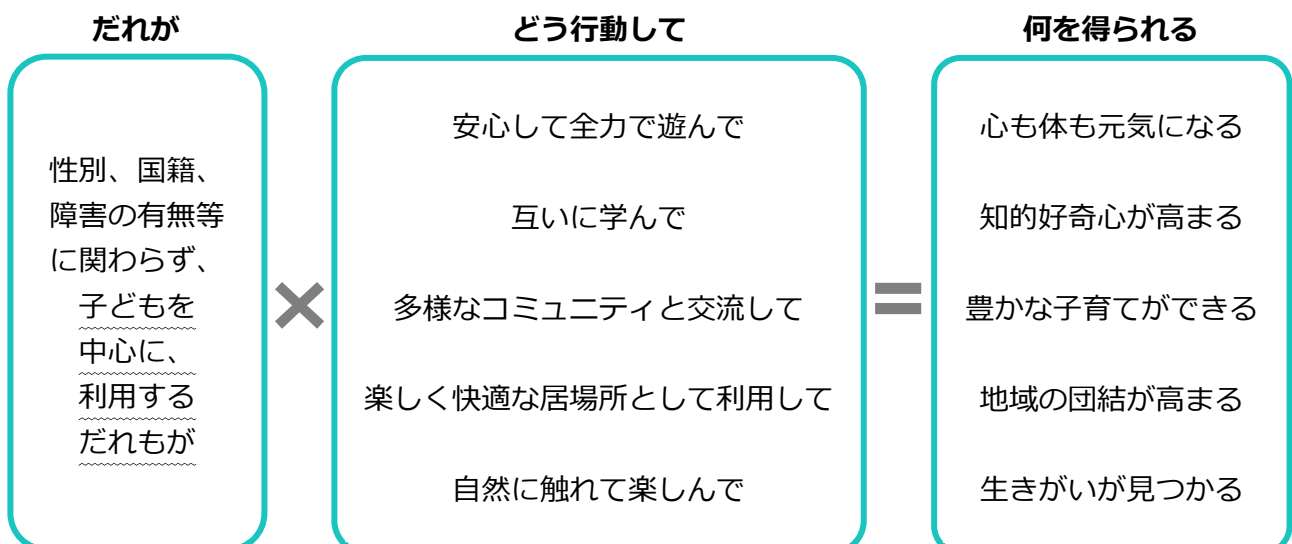
1. 利用者ニーズを踏まえた新施設のイメージ

過去に実施した「南口児童館についての市民意見交換会」、「清瀬市ジュニアリーダーズクラブからの意見聴取」、令和3年度に実施した「清瀬駅南口地域児童館整備基本計画策定に向けた市民ワークショップ」、「清瀬駅南口地域児童館整備基本計画策定検討委員会」において、次のような利用者ニーズが得られました。

表 3-1 利用者ニーズ

新施設全体	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な交流が生まれコミュニティが形成できる場所 ・勉強にとどまらず学べる場所 ・安全、快適に過ごせる場所 ・多目的に利用できる場所 ・持続可能な運営 	児童館
		<ul style="list-style-type: none"> ・安心して子どもが全力で遊べる場所 ・多様な遊びができる場所 ・子ども主体で成長できる場所 ・学習的イベントができる場所 ・親の交流も深まり、子育て支援ができる場所
		中央図書館
		<ul style="list-style-type: none"> ・読書の楽しさや大切さを体感できる場所 ・多様な情報に触れられる場所 ・知りたいことを突き詰められる場所 ・地域の歴史を学ぶことができる場所
		中央公園
		<ul style="list-style-type: none"> ・幼児～中学生までが全力で遊べる場所 ・多様な遊びができる場所 ・自然に触れて楽しめる場所 ・イベントができる場所

上記より、新施設は、子どもを中心に、利用するだれもが、遊び・学び・交流し・居場所として利用し・楽しみ、元気になる・知的好奇心が高まる・豊かな子育てができる・地域の団結が高まる・生きがいが見つかる場所として、“**アクティブ（積極的・能動的）かつ持続的に活動できるイメージ**”とすることが求められています。



2. コンセプト

(1) 事業コンセプト

「第3章 1. 利用者ニーズを踏まえた新施設のイメージ」を踏まえ、本事業のコンセプトを次のとおり掲げます。

こころ踊る出会いがあり のびのび・すくすく・いきいき過ごす 未来創造拠点

～事業コンセプトに込めた思い～

昭和のはじめ、まだ広大な雑木林が残されていた清瀬には、かつて「不治の病」として恐れられた結核療養所が次々と建設されました。本事業の整備予定地は、清瀬で最初に建てられた結核療養所である、府立清瀬病院跡地の一画に位置します。今や結核は、「療養するしかない時代」から「治療が可能な時代」となりましたが、長らく「療養」を支えてきた清瀬は、結核対策の聖地“KIYOSE”として国際的にも知られており、本市の誇りとなっています。

このような歴史のある地に、児童館を中央図書館との複合化により整備するとともに、中央公園と一体的に整備することで、様々な機能が融合し、様々な世代・様々なグループ間の活動や交流が生まれ、地域の活性化、ひいては清瀬市全体の活性化に資する新たな拠点を創出するという思いから、「**こころ踊る出会いがあり のびのび・すくすく・いきいき過ごす 未来創造拠点**」を事業コンセプトに掲げます。

新たな拠点には、子どもを中心に、利用するだれもが、将来への希望を持ち、のびのび・すくすく・いきいきと過ごせる環境づくりが求められています。その実現に向けては、子ども達が自主性を発揮できる場所とすることを第一として、大人達が温かく見守り、支え、みんなが互いを理解し、学び合いながら、他に類のない魅力的な拠点を一緒に創りあげていくという思いが必要です。

現代に生まれた子ども達が大人になった時に、この新たな拠点が幼い頃の良き思い出の地となるとともに、ふるさとである清瀬市の誇りと思えるような場所となることを目指し、本事業の整備に取り組みます。

(2) 本事業における市民参画の考え方

本事業では、本計画の策定段階にとどまらず、新施設の設計段階においても市民の皆さんからの意見をお聴きし、新施設のオープン後も、子どもをはじめとする市民の皆さんの参画の機会を設け、「**地域に愛され、地域とともに成長する施設**」の実現に向けて取り組みます。